

2024年3月13日(水)

老球の細道781号

なるほど・ザ・ワールドは「どこのドイツだ」⑤

.....ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅱ〉.....

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本バスケットボール協会は数年前から「S級」のコーチライセンスを設けた。それまでは「A級」が最高位のライセンスであったが、プロバスケットBリーグで指揮を執るためのライセンスとして新たに設定した。当初暫定措置として現Bリーグで指揮を執るヘッドコーチに簡易な講習でS級を授与したが、今年度から新たな講習方法で資格が与えられるようになった。その中には外国での研修と実習が課されるようになる。

わが会津地区ではレフリーで芳賀聡氏がS級ライセンスを取得しているが、コーチのS級はまだない。この紀行文が若手コーチ達に外国での研修への意欲になれば幸いである。

【2009年12月28日】

2日目スタート。昨日はホテルへのチップを忘れたので今朝は1ユーロ銀貨を枕元に置いて出発。外国においてはチップをあげる習慣があることを忘れてはならなかった。どんなことにおいても受けたサービスに対して少しでも感謝の気持ちを形で表すことが大切。

3時間くらい熟睡できたせいかわずつ時差ボケは解消に向かってきた。今日も一日を通してクリニックの連続である。体調が良くなってきたせいか、年甲斐もなくやる気満々なのが哀れであり、恥ずかしい。

午前中は99ersの体育館(ハートマンハーレー)でフィンランドU-20代表コーチ、アントン・ミロフノフによる色々なシューティング・ドリルの紹介だった。ガードやピックマンのポジション別シュート、スクリーンを使ったシュートなど、あいかわらずたくさん引き出しを持っていた。外国だけではなく国内のクリニックにおいても、いつも感心するのは、名コーチと言われる人たちは実に多くのドリルの引き出しを持っている。常に情報収集、その中から自分なりのアイデアを駆使して自分自身の独創性に富んだドリルを考え出す。アントンコーチも例外でなかった。ただ毎日をアンノン(安穩)として生きていない。

アントンからのクリニックでもう一つの収穫はアジリテイドリル。アジリテイは方向変換の速さを示す能力のことで、バスケットボールにおいては重要な基礎体力である。特にドリブルスキルにコーディネートさせれば強力な武器になる。それを養成するには非常に効果的なドリルになると興味深く学んだ。葵高校(当時勤務)選手をイメージさせながら。

なるほど、なるほど、なるほど・ザ・ワールドの連続で、バスケットボールの奥の深さをまたしても痛感させられた。30年以上おつきあいしてきたバスケットボール様々であるが、まだまだ知り尽くせない未知なる部分がある。未知なる部分、シークレットな部分があるから魅力的であり、いつまでも虜になっていられるのだろう。私も魅力あるザ・シークレットマンになってみたいものである。爺様ボケした頭はお昼が近づいてきたせいか集中力が欠けてきた。当時流行していたお笑い芸人「ヒロシです!腹が減ってきたとです」〈続〉